



2021 (令和3年) 年5月19日 (水) 発行

【発行所】 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL : 03-5216-8401 FAX : 03-5216-8520 E-mail : eces-manager@ecesj.com HP : <https://www.ecesj.com/>

【発行者】 応用生態工学会 編集責任者 : 幹事長 北村 匡 事務局長 青江 淳

1	はじめに	1
2	次期 (第 13 期) 役員候補を募集します	2
3	応用生態工学会 第 24 回札幌大会 開催案内	7
4	2021 年度海外学会等への派遣者の選考結果報告	10
5	2019 年台風 19 号災害調査団報告	11
6	会誌の規程類の修正について	12
7	理事会・幹事会報告	13
8	行事開催報告	13
9	2020 年度行事経過と今後の予定	21
10	事務局より	23

1 はじめに

今年度最初のニュースレターとなります。次期役員候補募集のお知らせ、学会第 24 回札幌大会の開催案内、各地の活動状況など、学会の動きをお伝えします。

次期役員候補募集のお知らせを掲載しました。

今年度は役員改選年にあたります。次期役員募集・推薦委員会（委員長：甲村会長、委員：谷田元会長、辻本元会長、江崎前会長）では、本年 9 月の第 25 回総会での次期役員選出に向けて、役員候補（会長候補、副会長候補、理事候補、監事候補）の募集を行います。

役員候補届出の受付期間は、本年 6 月 1 日から 6 月 30 日までです（郵送受付のみ）。

学会第 24 回札幌大会の開催案内を掲載しました。

応用生態工学会では、2021 年 (令和 3 年) 9 月 21 日 (火) ~ 25 日 (土) に第 24 回大会を開催します。大会は、対面形式とオンライン形式の併用にて開催します。ただし、新型コロナウイルス感染拡大の状況をふまえ、オンライン形式のみに切り替えます。

研究発表、自由集会、企業展示募集の申込み（発表申込み・要旨）は、いずれも 6 月 30 日が締切ります。

2 次期（第 13 期）役員候補を募集します

次期役員募集・推薦委員会

委員長：甲村謙友会長

委 員：谷田一三元会長，辻本哲郎元会長

江崎保男前会長

今年度は役員改選年にあたります。本委員会は、本年 2 月 10 日開催の第 109 回理事会で設置されたことを受け、4 月 7 日に第 1 回委員会を開催し、以下の要領で次期役員候補の募集を行うことといたしました。

会員の皆様におかれましては、以下の要領に従い、候補者の届出をしていただくようお願いいたします。

なお、本委員会の規程（次期役員募集・推薦委員会規程）は、別添のとおりです。

【候補者届出を受け付ける役員】

会長（1 名）、副会長（3 名以内）、理事（15 名以内）、監事（2 名）

※役員選出に関連する学会規約第 10, 11, 12, 14, 15 条の規定をご確認ください。

なお、幹事長については、学会規約第 13 条第 1 項の規定により理事会において候補が推薦されます。

幹事については、理事会において選出されます。

【届出の方法】

- ・自薦・他薦を問いません。
- ・会長候補及び副会長候補については、それぞれの候補者名に正会員 5 名以上の推薦人の名簿を添えて届け出てください。
- ・理事の候補者は、正会員である必要があります。
- ・届出は、学会事務局において郵送のみにて受け付けます。

応用生態工学会事務局 事務局長：青江 淳

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL. 03-5216-8401 FAX. 03-5216-8520

【受付期間】

2021 年 6 月 1 日から 6 月 30 日までの 1 ヶ月間

【届出の様式】

- ・別紙の所定様式を使用してください。
- ・別紙の所定様式は、学会ホームページから Word 版、pdf 版をダウンロードすることができます。

【今後の役員選出の流れ】

(1) 第 2 回次期役員募集・推薦委員会の開催

- ・候補者募集・受付期間の経過後（本年 7 月 14 日）に第 2 回委員会を開催し、候補者や推薦人名簿の確認などを行います。
- ・また、届出のあった候補者数を勘案して、学会規約第 10 条に定められている役員の人数の範囲内で候補者の推薦を行います。

(2) 候補者の周知

- ・本年8月上旬に、ニュースレター、ホームページ、会員メーリングリストにより第25回総会の開催案内とともに、次期役員の候補者を周知します。

(3) 総会での役員選出

- ・会長、副会長、理事及び監事は、本年9月21日に開催予定の第25回総会において投票により選出されます。
- ・なお、やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された次期役員候補者について投票し、または他の正会員を代理人として表決を委任することができます。

役員候補届出書

2021 年 6 月 日

応 用 生 態 工 学 会

次期役員募集・推薦委員会委員長 甲村 謙友 殿

届出者 所 属 :

氏 名 :

印

連絡先 :

応用生態工学会の第 13 期 (会長・副会長・理事・監事) 候補として, 下記のとおり届出いたします.

記

1. 候補者 (会長・副会長・理事・監事 — いずれかに○)

(1) 氏名 :

(2) 所属・役職 :

(3) 専門分野 :

2. 推薦人名簿 (会長候補及び副会長候補の届出には、正会員 5 名以上の推薦が必要です)

No.	氏 名	会員番号 (正会員)
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

(推薦人が 10 名を超える場合は別紙に記載ください)

推薦人名簿

[illegible]

【別 添】

次期役員募集・推薦委員会 規程

[1] 目的

本委員会は、学会規約に基づく次期役員の選出を円滑に行うために設置し、候補者の募集・受付、候補者の推薦、周知など、次期役員候補の推薦までの手続きを調整する。

[2] 設置と構成

本委員会は、役員改選年ごとに設置し、当該年の総会終了後に解散する。委員長（1 名）及び委員（2 名以上）は、理事会が指名する会員で構成する。

[3] 候補者の募集受付

本委員会が募る役員候補は、会長、副会長、理事、監事とする。なお、候補者の募集受付の基本的な要領は以下のとおりとし、募集案内や日程等を会員に周知するものとする。

- ・役員候補者は正会員とする。ただし、学会規約第 11 条及び第 14 条により、会長、副会長及び監事はこの限りではない。
- ・会長及び副会長については推薦（他薦）とし、それぞれの候補者名に正会員 5 名以上の推薦人の名簿を添えて届出人が学会事務局に届け出る。
- ・理事、監事については、自薦（立候補）・他薦（推薦）を問わない。
- ・候補者の募集受付期間は、役員改選年の総会の 4 ヶ月前～3 ヶ月前を基本とする。

[4] 候補者の推薦

本委員会は、候補者の募集受付期間内に受け付けた候補者に加えて、必要な場合には、学会規約第 10 条に規定する人数の範囲内で候補者の推薦を行う。

[5] 周知・投票に関する調整

本委員会は、学会事務局が実施する以下の活動の調整を行う。

- ・学会事務局は、候補者の募集受付の要領や推薦人名簿の様式等の必要な書類の周知を、学会ニュースレター及び学会のホームページへの掲載等によって行う。
- ・学会事務局は、次期役員候補者を、総会までに学会ニュースレター及び学会のホームページへの掲載等によって会員に周知する。
- ・学会事務局は、総会において次期役員選出のための投票結果をとりまとめる。なお、やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員については、あらかじめ通知された次期役員候補者について投票し、または他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

[6] 総会における報告

本委員会は、学会規約第 11 条、第 12 条、第 14 条、及び第 15 条に基づく総会での役員の選出が円滑に行われるよう、総会において以下に示す報告等を行う。

- ・次期役員候補者の募集・推薦等の経過の報告

[7] 付則

本規程は、平成 21 年 5 月 11 日より施行する。

本規程は、平成 21 年 8 月 27 日改正し、施行する。

本規程は、平成 27 年 4 月 1 日改正し、施行する。

本規程は、平成 29 年 8 月 30 日改正し、施行する。

本規程は、令和 3 年 2 月 10 日改正し、施行する。

3 応用生態工学会 第24回札幌大会 開催案内

応用生態工学会 第 24 回大会開催案内

2021 年（令和 3 年）9 月 21 日（火）～9 月 25 日（土）
第 25 回総会，第 24 回研究発表会・自由集会・公開シンポジウム・エキスカーショ

応用生態工学会では，2021 年（令和 3 年）9 月 21 日（火）～25 日（土）に第 24 回大会を開催します。大会は、対面形式とオンライン形式の併用にて開催します。ただし、新型コロナウイルス感染拡大の状況をふまえ、オンライン形式のみに切り替えます。

会場は以下の通りです。

- ・ 総会・公開シンポジウム（札幌市民交流プラザ）：9 月 21 日（火）
- ・ 発表会・自由集会（札幌教育文化会館）：9 月 22 日（水）～24 日（金）
- ・ エキスカーション（札幌市内：豊平川）：9 月 25 日（土）

※懇親会は実施しません。

※ポスター発表は実施しません。

1. 大会概要

【大会期間】 令和3年9月21日（火）～令和3年9月25日（土）

【開催内容】 各日程の開催内容は下記の通り。

日程	開催内容※1	開催会場
令和3年9月21日（火）	午前：総会 午後：公開シンポジウム	さっぽろ創世スクエア 札幌市民交流プラザ 3階
令和3年9月22日（水）～24日（金）	研究発表会※1・自由集会 企業展示	札幌市教育文化会館 3階・4階
令和3年9月25日（土）	エキスカーション※2	札幌市内：豊平川

※1 会場での口頭発表（オンライン配信あり）とオンライン発表（会場配信あり）を予定しています。新型コロナウイルスの感染リスクを考慮し、「ポスター発表」は実施しません。

※2 エキスカーション参加者は、公共交通機関での集合・解散とします。

2. 公開シンポジウム

「（仮）未来の治水を考える：国土と生態系の強靱化を目指して」

オンライン配信：500名

会場定員：100名程度

3. 各申し込み予定

【発表・自由集会・企業展示募集】 開始：令和3年6月上旬

締切：令和3年6月30日（発表申込み・要旨）

【会場参加募集 (200名程度※3)】 開始：令和3年8月上旬
締切：令和3年8月下旬

※3 発表者含む。

【オンライン参加募集 (500名)】 開始：令和3年8月上旬
締切：令和3年9月中旬

大会発表等の申込み方法, 申込み開始日は ニュースレターの次号 (No. 93, 5 月下旬配信予定) やホームページおよびメーリングリストでご案内いたします。

■会場



① 令和3年9月21日 (火) <総会、公開シンポジウム>

【開催場所】 さっぽろ創世スクエア 札幌市民交流プラザ 3階(クリエイティブスタジオ)
(<https://www.sapporo-community-plaza.jp/>)

【参加者数】 ○会場参加：100名程度
○オンライン参加：500名

【所在地】 札幌市中央区北1条西1丁目

【アクセス】 「さっぽろ創世スクエア 札幌市民交流プラザ」には地下に駐車場がありますが、有料となります。来場にあたっては下記の交通機関もご利用ください。

➤ [JR] 札幌駅南口より徒歩約10分

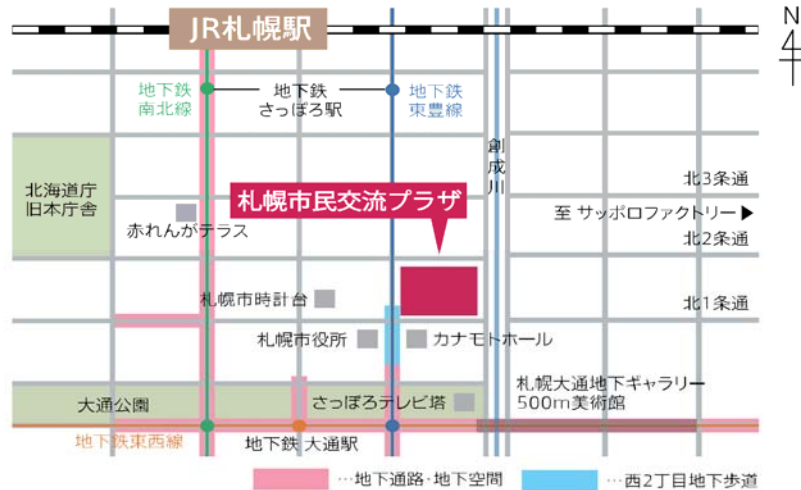
➤ [地下鉄南北線・東西線・東豊線] 大通駅※1より徒歩約5分

※1 地下通路・地下空間を30番出口に向かい、西2丁目地下歩道を通して直通。

➤ [市電] 西4丁目駅より徒歩約12分

➤ [ジェイ・アール北海道バス] 時計台前停留所※2より徒歩約2分

※2 JR札幌駅のバスターミナルにおいて、“55系統”又は“57系統”等のバスに乗り。



〔図引用〕：「札幌市民交流プラザ」HPのイベントスケジュール機関紙「PLAS（プラス）」のアクセスマップ

②令和3年9月22日（水）～24日（金）＜研究発表会、自由集会＞

【開催場所】 札幌市教育文化会館 3階・4階（研修室・講堂・ギャラリー）
(<https://www.kyobun.org/>)

- 口頭発表（対面形式）：約70件/2会場 《オンライン配信》
- 口頭発表（オンライン形式）：約30件/1会場 《会場配信》
- 自由集会：12件程度/3会場 《会場・オンライン形式》
- 企業展示：5件程度/1会場 《会場》

【参加者数】 ○会場参加：計200名程度（発表者含む）

○オンライン参加：500名

【所在地】 札幌市中央区北1条西13丁目

【アクセス】 一般来場者用の駐車場はないため、下記の通り、交通機関にて来場ください。

➤[地下鉄東西線]西11丁目駅^{※1}（1番出口）より徒歩約5分

※1 JR札幌駅近くの[地下鉄南北線]さっぽろ駅より乗車し、大通駅にて[地下鉄東西線]に乗り換える。

➤[市電]西15丁目駅より徒歩約10分

➤[ジェイ・アール北海道バス]北1条西12丁目停留所^{※2}より徒歩約1分

※2 JR札幌駅のバスターミナルにおいて、“55系統”又は“57系統”等のバスに乗り。

[中央バス]北1条西12丁目停留所^{※3}より徒歩約1分

※3 JR札幌駅のバスターミナルにおいて、“札幌～小樽：円山経由”線等のバスに乗り。



③ 令和3年9月25日（土）＜エクスカーション（体験型見学会）＞

札幌市内の豊平川沿川の散策ないしサイクリングを予定しています※4。

※4 貸し切りバスでの移動・現地視察は行わず、公共交通機関（JR苗穂駅～さけ科学館）での現地集合・解散とします。雨天時は中止を検討。

【視察場所（予定）】 札幌市内（豊平川～精進川）

- ① 豊平川 水穂大橋～東橋（サケの産卵床造成箇所など）
- ⇒② 精進川（多自然川づくり、サクラマスの遡上・産卵など）
- ⇒③ 札幌市豊平川さけ科学館

【視察時間】 9/25（土）午前～午後

4 2021 年度海外学会等への派遣者の選考結果報告

国際交流委員会委員長 篠原隆一郎

2021 年度海外学会等への派遣者募集に関しては、現在、新型コロナウイルスの世界的な流行により、国際学会・シンポジウム・国際会議においては、オンライン開催（ウェビナー開催）が定着しつつあることを踏まえ、ウェビナー開催への参加費に関しても助成対象とすることとした。

2 月 17 日～3 月 31 日の期間で学会ホームページ、ニュースレター、メーリングリストによる従来の募集方法に加えて、近年応募者が少ないことを踏まえ、若手の会にリマインダーを依頼したり、facebook による呼びかけを行ったが、期間内に郵便物及びメールいずれも応募がなかった。

募集期間を延長するかについてメール会議を開催し、コロナが原因なので、収束まではなかなか応募者を見込めないのではないかと考え、募集期間の延長はしないこととした。

5 2019 年台風 19 号災害調査団報告

2019 年台風 19 号災害調査団報告

- ・当学会は、これまで鬼怒川の災害、九州北部豪雨の災害に対し提言を出しており、今回が三回目となる。
- ・今回の災害は、非常に広範囲にわたっていたので、調査団メンバーは生態学、河川工学、地形学など様々な分野の会員によって、千曲川、多摩川、那珂川、久慈川、東北河川、千葉県の川を対象にすることで選定した。
- ・学会として、災害調査団をどう位置付けるかというフロー図では、大規模な災害が発生すると、まず先遣隊が現地に入り、その調査結果を踏まえ、二次調査団を派遣するというプロセスを示しており、今回の調査団の現状は、先遣隊を派遣した段階でコロナが発生したため、先遣隊の報告を聞いて、二次調査団を派遣するというプロセスに進めなくなり、すでにあるデータによって報告書を仕上げた。

応用生態工学会災害対応委員会

2019 年台風 19 号（令和元年東日本台風） 災害調査団名簿

団 長	中村 太士※	（北海道大学大学院農学研究院）
副団長	島谷 幸宏※	（九州大学大学院工学研究院）
団 員（五十音順）		
厳島 怜		（東京工業大学環境・社会理工学院）
大槻 順朗※		（山梨大学大学院総合研究部）
鬼倉 徳雄		（九州大学大学院農学研究院）
倉本 宣		（明治大学農学部）
関根 秀明※		（株式会社建設技術研究所）
瀧 健太郎※		（滋賀県立大学環境科学部）
西廣 淳※		（国立環境研究所気候変動適応センター）
原田 守啓※		（岐阜大学流域圏科学研究センター）
平林 公男		（信州大学繊維学部）
皆川 朋子		（熊本大学大学院先端科学研究部）
森 誠一		（岐阜共立大学経済学部）

※提言執筆者

2019 年台風 19 号（令和元年東日本台風）災害を踏まえた治水・環境への提言 目次

1. 河道整備における提言
 - 1.1 合流部及び支川（提言-1）
 - 1.2 霞堤（提言-2）
 - 1.3 水害防備林（提言-3）
 - 1.4 高水敷（提言-4）
2. 流域治水に向けた提言（グリーンインフラを意識して）
 - 2.1 堤外と堤内が連携した治水システムの構築（提言-5）
 - 2.2 水源域農地等からの流出抑制の促進（提言-6）
 - 2.3 沿川農地の雨水貯留機能と遊水機能の確保（提言-7）

2.4 旧河道跡など微地形への配慮 (提言-8)

2.5 流域治水における上流・下流問題の統合的理解 (提言-9)

2.6 原形復旧から未来復興へ (提言-10) 第 109 回理事会 (Web 会議) 報告

※ 提言・活動報告書はこちらを参照

提言：

https://www.ecesj.com/contents/guidance/report/2021_2019TyphoonNo19_Disaster_Recommendations.pdf

活動報告書：

https://www.ecesj.com/contents/guidance/report/2021_2019TyphoonNo19_Disaster_Report.pdf

6 会誌の規程類の修正について

2 月 10 日に会誌の刊行・投稿・校閲規程及び編集委員会内規の修正を行いました。今回の修正は広範囲に及び、学会で利用している編集システムとの整合や、J-STAGE における論文の早期公開会員への対応など、会員や投稿者の利便性の向上を図るために実施しました。以下にそのいくつかのポイントをご報告します。

なお、最新の規程類は、https://www.ecesj.com/contents/jou_ecesj.html からご覧ください。会員の皆様におかれましては、積極的な論文投稿をお願いします。

【刊行規程】

- ・論文種別の「事例研究」と「レポート」の定義がややわかりにくかったことから、考察の有無についての違いを明確化するなど修正した。
- ・特集の扱いを報文集であるとして明確化した。

【投稿規程】

- ・原稿の受理日を担当編集委員が認めた日と明確にした。
- ・超過ページの著者負担を、学会の負担の大きさも考慮した上で従来の 1 ページ 1 万円から 5 千円と半額にした。
- ・報文原稿の書き方について編集システムとの整合をとった。
- ・冊子体はモノクロ印刷、PDF はカラーを基本とすると明記した。なお、冊子体のカラー印刷（著者負担は 1 ページ 7 万円）は、従来どおり著者の希望を確認して実施している。
- ・別刷り（従来は著者に一律 50 部無料で提供）は、希望者のみに提供とした。
- ・J-STAGE における論文の早期公開に対応するよう文言を修正した。なお、24 巻 1 号に掲載が予定される論文から早期公開を順次実施している。

【校閲規程】

- ・特集の企画者を担当編集委員にすることを可能にした。
- ・査読結果を踏まえた担当編集委員の判定について、細かいルールの記事を省き、実態に合わせて担当編集委員が責任を持つて行うとした。
- ・修正投稿の期限について、最近の傾向を踏まえ判定後 21 日を基本とし、査読意見に応じて担当編集委員が期日を設定することを明確化した。

7 理事会・幹事会報告

7.1 第 110 回理事会（メール会議）報告

第 110 回理事会（メール会議）が本年 4 月 14 日～20 日に開催された。

第 110 回理事会での審議事項と審議結果は次のとおり。

①第 12 期幹事の選出

- ・第 12 期幹事の国土交通省水管理・国土保全局河川環境課河川環境保全調整官の波多野 真樹氏の本年 4 月の人事異動による転出のため委嘱を解き、後任の信田 智氏を新たに第 12 期幹事に選出することについて、審議の結果、原案どおり承認された。

※学会規約第 13 条第 1 項「幹事は理事会において正会員の中から選出される」

なお、職名も河川環境保全調整官から河川環境保全企画調整官に変わりました。

8 行事開催報告

8.1 応用生態工学会 名古屋 テキストセミナー（WEB）－河道内氾濫原の保全と再生－

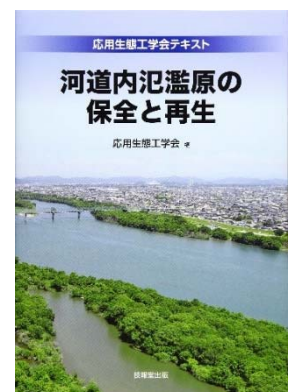
応用生態工学会名古屋 小松健太（玉野総合コンサルタント株式会社）

堀田大貴（株式会社建設技術研究所）

1. 行事概要

(1) 趣旨

河川環境の重要な構成要素である河道内氾濫原に着目し、最新の知見を踏まえて、その保全・再生方法についてとりまとめられたテキスト「応用生態工学会テキスト 河道内氾濫原の保全と再生」が多くの方々に活用いただけるよう、勉強会を開催した。



(2) 開催内容

【開催概要】

- 日 時 : 令和3年1月29日（金） 13:30～16:15
 開催方法 : WEB（Zoom ウェビナー）
 参加者数 : 121名
 参加費 : 無料
 講師 : 田代 喬（名古屋大学 減災連携研究センター）
 永山滋也（岐阜大学 高等研究院地域環境変動適応研究センター）
 原田守啓（岐阜大学 流域圏科学研究センター）

【プログラム】

13:30~13:40	本セミナーの主旨の説明	田代 喬
13:40~14:40	テキストの内容の解説	永山滋也・ 原田守啓
14:40~14:50	休 憩	
14:50~15:20	話題提供 1：中小河川の河道内氾濫原，河川合流部の保全方策	原田守啓
15:20~15:50	話題提供 2：山地部・自然堤防帯における氾濫原保全	永山滋也
15:50~16:05	話題提供 3：扇状地端部を流れる湧水河川の特異性から保全の方向性を考える	田代 喬
16:05~16:15	質疑応答	

(3) 講演内容

① テキストの内容解説

テキストの目次に沿って、河道内氾濫原の定義とその現状、また、河道内氾濫原の保全・再生の方法と実践事例について、各章の要点を講師から解説いただいた。



永山先生



原田先生

② 話題提供

氾濫原の保全・再生にあたって有用な話題を3名の講師より提供いただいた。

中小河川の河道内氾濫原，河川合流部の保全方策（原田先生）

河道内氾濫原の保全・再生の場として、河川合流部の重要性に着目した研究事例等について話題提供いただいた。

河川合流部の生態的機能をレビューしたうえで、木曽三川における合流部の数や形態、連続性の現状、合流部の川幅に影響する要素等について調査・検討の結果が紹介された。

また、合流部が治水上の弱点になっている点にも留意し、治水と環境保全を両立させるための合流部における基本的な考え方として、十分な川幅を確保しつつ、必要な堤防補強等を行うことの重要性を指摘し、河道掘削が河道内氾濫原再生のチャンスであることを解説いただいた。

山地部・自然堤防帯における氾濫原保全（永山先生）

テキストでは扇状地帯や自然堤防帯の氾濫原が対象とされたが、これ以外に、山地河川においても氾濫原が存在することについて、研究事例を踏まえ、話題提供いただいた。

山地部のなかでも急勾配な谷底平野の氾濫原の保全にあたっては、扇状地における氾濫原と同様の考え方で保全できる可能性について言及された。

緩勾配の谷底平野における氾濫原では、自然堤防帯における氾濫原と同様の考え方で保全できる可能性について言及された。

また、氾濫原環境を理解するうえで重要な「シフティングハビタット」の概念について解説された。木曽川の事例では、タナゴ・二枚貝の生息場として新しいワンドの形成が重要であることが示され、その方法として治水対策としての河道掘削とあわせた検討が可能であることを言及された。

扇状地端部を流れる湧水河川の特異性から保全の方向性を考える（田代先生）

河川から堤内地の氾濫原にいたる横断方向の水域のつながりと、そこに関わる人間の土地利用を考え直すきっかけとして、流域治水と関連させた整理が必要である点について言及された。

講演では、揖斐川右岸地域における水域の変遷を整理し、経年的な水域数の変化とその要因を考察した結果、圃場整備等が水域の減少に関与していた可能性を指摘した。

また、当該地域の水の流れが輪中堤によって規定されていた可能性も指摘された。

このように堤外地における氾濫原環境が人為的な土地利用の改変によってもたらされていることに着目し、今後の氾濫原の保全の考え方が提言された。

3. おわりに

今回の勉強会では、テキストの執筆を担当した講師より、テキスト記載内容についてわかりやすく解説いただいた。また、テキスト記載内容にとどまらず、最新の研究事例の紹介のほか、本来の氾濫原である河道外の氾濫原も含めた保全・再生の必要性について言及があり、今後、取り組むべき内容が垣間見える内容であった。

応用生態工学会名古屋では、今後も、氾濫原の保全・再生の在り方や具体的な方策について地域の研究者や実務者と情報交換を行っていく。

新たな知見が集積された時点で再度、勉強会等を開催し、皆様に還元していきたい。

以上

8.2 応用生態工学会 仙台 『仙台震災復興 10 年ワークショップ 2021』

『仙台湾南部海岸環境追跡プロジェクト ～東日本大震災後の海岸堤防について～』

令和 3 年（2021 年）3 月 27 日（土）：事例報告・パネルディスカッション（ウェビナー開催）

【開催報告】

応用生態工学会仙台 普及・連携委員
（株）復建技術コンサルタント 佐藤高広

1. 開催趣旨

東日本大震災から 10 年が経とうとしています。未曾有の大震災がもたらした津波は沿岸域の生態系にどのような影響を及ぼし、その後沿岸域生態系はどのように変化したのでしょうか。震災後の沿岸生態系の変化を見てきた研究者に、震災影響とその後の変化について学術面から明らかになったことを報告していただくとともに、この 10 年間を振り返ることで、沿岸生態系保全に際しての今後の課題や、より良い防災インフラの整備について議論しました。

2. 実施体制・参加者内訳等

- 開催予定：令和 3 年 3 月 27 日（土曜日）13:00～17:30
- 場 所：東北大学片平キャンパス生命科学プロジェクト棟 講義室より WEB ライブ発信
(市営地下鉄東西線：青葉通り一番町)
 - ・会場参加者は 40 名まで(講演者・パネラーと事務局学会メンバー含む)に限定(コロナ対応)
 - ・一般はオンラインでの参加 参加資格なし（一般に公開）
 - ・参加者は最大約 350 名(38 都道府県より参加)
- 主 催：応用生態工学会 仙台
- 協 賛：三井物産環境基金、アースウオッチ・ジャパン
- 共 催：日本生態学会東北地区会、日本景観生態学会、植生学会、自然環境復元学会
東北大学生態適応センター、日本ベントス学会自然環境保全委員会
- 後 援：国土交通省東北地方整備局、宮城県、仙台市、(一社)日本環境アセスメント協会東北支部、(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部、(一社)東北地域づくり協会

3. 開催内容

- ・13:00-13:05 開会の挨拶 占部城太郎（応用生態工学会副会長）
- ・13:05-13:10 趣旨説明 佐藤高広（応用生態工学会幹事）

【事例報告】 13:10～15:15（各 25 分）司会：丸尾知佳子 東北大工学部

講演 1 13:10-13:35 黒沢高秀 福島大学共生システム理工学類

「津波浸水域の植物の種多様性の震災影響とこの 10 年の変化」

講演 2 13:35-14:00 岡浩平 広島工業大学環境学部

「大津波から蘇る砂浜海岸エコトーンのレジリエンス」

講演 3 14:00-14:25 金谷弦 国立環境研究所地域環境研究センター

「蒲生干潟における環境・植生・底生動物のうつりかわりー震災後 10 年間の変化」

講演 4 14:25-14:50 松政正俊 岩手医科大学教養教育センター

「岩手県沿岸の汽水域の変化：特に宮古湾と広田湾の干潟について」

講演 5 14:50-15:15 占部城太郎 東北大学生命科学研究科

「井土浦と東谷地の 10 年：復興工事と保全の隘路」

各講演者の報告の概要は以下のとおりです。

【黒沢先生，福島大】津波浸水域の植物の種多様性の震災影響とこの 10 年の変化

- ・久慈～石巻の沿岸には最大 20m を超える津波が押し寄せ、津波によって住宅消滅、水田が浸漬、海岸林が消失
- ・水田は池や湿地に、海岸林は塩性湿地に変化、震災前の開発によって消失した植物が津波後に一部発芽
- ・復旧・復興事業への懸念、生態系への影響に警鐘
- ・各学会から生態系を配慮した事業の要望書が提出、保護区の設置による植生復元



【岡先生，広島工大】大津波から蘇る砂浜海岸エコトーンのレジリエンス

- ・宮城野区岡田新浜が現場で、震災前は多様な自然地形に植生であったが、津波後は砂丘があらわになり、後背湿地に倒木
- ・砂丘には海浜植物が繁栄し、震災後のマツの植栽、クロマツの更新
- ・マツが増加し、他の海浜植物は緩やかに減少する傾向
- ・緑の防潮堤や CSG 堤防（井戸浜）等の事業、表砂の活用が重要
- ・高さ 15m の自然砂丘、多様な海浜植物が生息するため、時間をかけて砂浜の再生を期待



【金谷先生，国環研】蒲生干潟における環境・植生・底生動物のうつりかわり-震災後 10 年間の変化

- ・延長南北に 1km，幅 250m 蒲生干潟が現場、震災前は養魚場があり、ヨシ原，3 基の導流堤で水交換をコントロール，砂嘴上に海浜植生が生育していたが、震災後は、砂嘴の寸断，崩壊，導流堤破壊，ヨシ原の消失
- ・震災後 10 年調査、ヨシが復活、海浜植生・ハママツナが繁茂、ゴカイ，ヨコエビは震災後増加
- ・2018 年以降に導流堤の再建が行われ、人為的影響もあり
- ・干潟を囲む「場」の「繋がり」に配慮した生態系管理と時間経過が重要、パッチ状の場も重要



【政先生，岩手医大】岩手県沿岸の汽水域の変化：特に宮古湾と広田湾の干潟について

- ・岩手県三陸宮古湾、広田湾、山田湾等における事例紹介
- ・宮古湾河口干潟、チリ地震、十勝沖地震の影響も
- ・5 エリアで干潟ベントス調査、定性、定量調査を実施、基礎調査と生態系監視のデータ比較、調査手法でクラスター解析に違いあり
- ・広田湾、小友浦震災からは10年でリセット、今後のモニタリング重要
- ・群集特性を理解して地域多様性維持へ



【占部先生，東北大】井戸浦と東谷地の10年：復興工事の保全の隘路化

- ・2011年6月に現地調査を開始、震災前後の比較した結果、その当時は津波によって、従来の種の2割くらいしか残っていない
- ・被災生態系生物モニタリングを10年継続調査、市民参加型の干潟調査、12人1組で実施、2013年には生物が戻ったことを確認
- ・環境が戻れば生物群集も戻る、場の違いが重要、戻らない場所の特徴
- ・砂浜生態学の開拓→生態系保全と防災インフラの共役



【パネルディスカッション】15:30～17:30

◆議題「東日本大震災からの再生～沿岸環境の変化10年と今後の課題」

○前半の事例報告に関する質疑応答

○東日本大震災前後の沿岸環境と10年経過後の状況について、各コメンテーターがトピックスを5分程度で話題（課題）提供

○それを踏まえて、事例報告者・コメンテーターを含めて座談会形式で、震災の影響やその後の生態系変遷についてわかったこと、今後の課題などを議論

◆ファシリテーター：竹門康弘 京都大学防災研究所

◆リアルタイムライター：高橋真司 東北大工学研究科

◆コメンテーター：萱場祐一 土木研究所研

佐藤慎一 静岡大学理学部

鈴木孝男 みちのくベントス研究所

平吹喜彦 東北学院大教養学部

松島 肇 北海道大学農学研究院

・17:30-17:35 閉会のご挨拶 萱場祐一（応用生態工学会）

各パネラーの報告の概要は以下のとおりです。

【萱場先生、土木研究所】

- ・震災後に設置した海岸堤防においてモニタリングを実施、砂浜幅 70 m、地面 2.5m 以上が保全に必要
- ・重要なエリアについてはセットバックして砂浜幅を広げ、応用生態工学仙台でモニタリングを実施(物理環境・植物・昆虫)
- ・セットバック箇所と参照区間で調査、堤防を境に植物相に違いあり
- ・長期モニタリングを継続していくために連携を撮っていく必要あり



【佐藤先生、静岡大学】

- ・松島湾東名浜が現場、津波によって干潟が消失
- ・震災前はサキグロタマツメタが生息、震災後はサキグロタマツメタが消滅、代わりにホトトギスガイやオオノガイ出現
- ・種構成には津波による地形変化が影響、津波によって防潮堤が破壊され、地盤沈下が生じた結果、深い水深を好む種が出現



【鈴木先生、みちのくベントス研究所】

- ・志津川湾で、市民調査を 2019 年まで継続
- ・干潟の生物は震災の影響はあるものの順調に回復している
- ・護岸工事箇所では種数が低下
- ・既存の干潟は堤防の下になった
- ・湿地の形成、モニタリングの必要あり



【平吹先生、東北学院大学】

- ・海岸エコロニーでの立地・生物・景観のつながり
- ・立地・ハビタットの異質性、多様性の存続が重要
- ・防災事業による著しい攪乱破壊、海岸の均一化、人工化、内陸化、順応的な修正が不足
- ・市民力・地域力の醸成による復興国土強靱、防災教育などに織り込むことの重要性
- ・統合的な沿岸管理の確立、将来へ価値ある仕組みを残す必要



【松島先生、北海道大学】

- ・海浜エコトーン、レジリエントな海岸の消失
- ・蒲生干潟では、地盤高 2.5m が条件
- ・井土浦では、防潮堤の建設により陸と海の分断
- ・海岸の定義の見直し、今後は潮間帯及び砂丘も含めて検討する必要あり
- ・自然海岸の範囲の拡張をする必要あり





ファシリテーター(竹門先生、京都大学)と
リアルタイムライター(高橋氏、東北大学)



WEB 配信の中央画面



会場の状況



オンライン画面 (YouTube 配信)

4. おわりに

今回のシンポは最大で約 350 名のご参加をいただき、震災 10 年の節目に実施したこともあり関心の高さをうかがえる結果だったと思います。コロナ禍においても WEB の強みを活かして今後も活動の幅を広げていきたいと思っています。

その他、パネルディスカッションでは、希少種の価値・意義、市民調査のメリット、普通種の価値、生物間・生息場の繋がり、生態系機能（サービス）の価値、海岸の定義など様々な意見が出ており、震災 10 年は通過点であり、今後も継続した調査・研究の必要性を再認識しました。

最後に、ご発表いただいた先生方を初め、協賛・共催・後援を頂きました皆様、事務局関係者の皆さまには多大なご協力を賜りました。また、ウェビナー操作のご指導をいただきました情報サービス委員会の方には、準備段階からご支援をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

9 2020 年度行事の経過と今後の予定

2020 年度(令和 2 年度)行事の経過

4. 1	2020 年度(令和 2 年度) 開始
4. 3～6	国際交流委員会(メール会議), 2020 年度海外学会等への派遣者 ⇒ 募集中止
4. 17	第 24 回札幌大会第 2 回実行委員会 ⇒ 延期
4. 17	応用生態工学会札幌 「氾濫原テキスト」勉強会 ⇒ 延期
5. 14～20	第 105 回理事会(メール会議)
5. 28～6. 5	情報サービス委員会(メール会議)
5. 21	第 24 回札幌大会の 1 年延期をホームページに掲載、会員に一斉配信
5. 21	ニュースレター 88 号発行
6. 2～12	第 86 回幹事会(メール会議)
6. 18～25	情報サービス委員会(メール会議)
6. 23	編集幹事会(Web 開催)
7. 29～31	2019 年度決算監事監査(書面検査)
7. 30～8. 5	第 106 回理事会(メール会議)
8. 6	応用生態工学会仙台 フィールド調査令和元年度報告会(Web 開催) 『仙台湾南部海岸環境追跡プロジェクト～東日本大震災後の海岸堤防について～』
8. 6	編集幹事会(Web 開催)
8. 12	応用生態工学会東京 2020web 研究発表会 第 1 回準備会(Web 開催)
8. 17	第 24 回札幌大会第 2 回実行委員会(web 開催)
8. 18～25	情報サービス委員会(メール会議)
8. 21～27	第 87 回幹事会(メール会議)
8. 31～9. 7	第 107 回理事会(メール会議)
9. 14	国際交流委員会(Web 開催)
9. 17～30	第 24 回総会(メール会議)
9. 17	ニュースレター 89 号発行
9. 24～28	応用生態工学会 第 24 回札幌大会 ⇒ 1 年延期
9. 24～28	第 108 回理事会(メール会議)
9. 25	テキスト刊行委員会(Web 開催)
9. 28	会誌「応用生態工学」Vol. 23-1 発行
10. 3	<後援・応用生態工学会>近畿地方整備局主催 令和 2 年度多自然川づくり近畿地方ブロック担当者会議(Web 開催)

12. 1	普及・連携委員会（対面とオンライン併用） (札幌教育文化会館講堂)
12. 1	応用生態工学会札幌 「氾濫原の保全と再生」テキスト勉強会 (対面とオンライン併用) (札幌教育文化会館講堂)
12. 1	応用生態工学会金沢 Web 研修会 「激甚化する豪雨災害に対する流域全体の取り組み」
12. 5	応用生態工学会 2020 年度 web 研究発表会
12. 11	将来構想委員会 (Web 開催)
12. 17	会誌編集委員会 (Web 開催)
12. 17	応用生態工学会福岡 九州地区事例・研究発表会 (Web 開催)
1. 11	<共催・応用生態工学会新潟>新潟大学農学部野生動物生態学研究室主催 新潟市民シンポジウム～ 洋上風力発電について一緒に考えてみませんか? ～ (朱鷺メッセ 4F 国際会議室)
1. 19	第 88 回幹事会 (Web 開催)
1. 25	ニュースレター90 号発行
1. 29	応用生態工学会名古屋 「氾濫原の保全と再生」テキスト勉強会 (Web 開催)
2. 1	第 109 回理事会 (Web 開催)
2. 26	ニュースレター91 号 発行
2. 28	会誌「応用生態工学」Vol. 23-2 発行
3. 27	『仙台震災復興 10 年ワークショップ 2021』 『仙台湾南部海岸環境追跡プロジェクト～東日本大震災後の海岸堤防について～』 (WEB ライブ発信) 東北大学片平キャンパス生命科学プロジェクト棟)
3. 31	2020 年度 (令和 2 年度) 終了

2021 年度(令和 3 年度)行事経過と今後の予定

4. 1	2021 年度(令和 3 年度) 開始
4. 3	企画運営委員会(メール会議)
4. 7	第 13 期次期役員募集・推薦委員会(第 1 回)(Web 会議)
4. 14~20	第 110 回理事会(メール会議)
5. 19	ニュースレター 92 号発行
5 月~6 月	幹事会(Web 会議)
6 月	理事会
7 月	会誌「応用生態工学」Vol. 24-1 発行
7 月	ニュースレター 93 号発行
7 月	幹事会
8 月	理事会
9. 21	応用生態工学会 第 25 回総会
9. 21~25	応用生態工学会 第 24 回大会
12 月	幹事会
12 月	ニュースレター 94 号発行
1 月	会誌「応用生態工学」Vol. 24-2 発行
2 月	理事会
2 月	ニュースレター 95 号 発行
2 月~3 月	2022 年度海外学会等への派遣員の募集
3. 31	2021 年度(令和 3 年度) 終了

10 事務局より

10.1 住所等の連絡先が変更となった場合は連絡をお願いいたします

会員情報の変更登録は、ホームページのトップ画面右上の「入退会・登録変更・購読」バナーから入り、「会員登録情報変更フォーム」から入力して送信してください。

また、下記 URL で「会員登録情報変更フォーム」へ直接接続することもできます。

<https://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

会員情報変更のご連絡は、学会事務局のアドレス E-mail: eces-manager@ecesj.com にメールをいただくことも可能です。

会誌のお届け、ニュースレター、その他連絡では、かなりの不達が発生しています。よろしくお願ひいたします。

10.2 退会の申し出は学会ホームページの退会フォームからお願いいたします

退会の申し出については、退会フォームのほかに、事務局へのメール、電話、年会費払込請求書の通信欄に記載等でなされています。事務局の見落とし等の原因の元になりますので、できるだけ退会フォームまたは件名に「退会の連絡」等明示したメールによる申し出をお願いいたします。

10.3 会員数および LEE 購読者数

2021 年 5 月 10 日現在

	会員数	対前年同時期比較	LEE 購読者数	対前年同時期比較
名誉会員	9 名	増減なし	1 名	減 1 名
正会員	863 名	増 23 名	※65 名	減 4 名
学生会員	66 名	減 29 名	6 名	増 2 名
合 計	938 名	減 6 名	72 名	減 3 名
賛助会員	44 法人 (62 口)	増 1 法人 (増 1 口)		

※賛助会員 1 社を含む